



第 362 号

平成30年6月11日発行

- ・巻頭言
- ・北海道中学校長会総会研修会
- ・役員・理事一覧
- ・運営方針及び活動の重点
- ・地区だより・論文
- ・さりながら・文芸
- ・事務局日誌

北海道中学校長会総会・研修会



「つなげ合い 新たな道を拓く 道中」 を目指して

北海道中学校長会 会長 橋本直樹

創立以来「中学校長の職能向上と北海道中学校教育の振興」を目的として、時代時代の課題に向き合い、70年に及ぶ歴史を刻んできた本会会長の任を仰せつかることは、大変光栄なことであると同時に、職責の重さを強く感じているところです。微力ではございますが、副会長の皆様をはじめ、運営委員・理事・幹事の皆様、そして何よりも全道20地区の校長会574名の会員の皆様のご支援とご協力をいただきながら、北海道中学校長会の歴史と伝統をしっかりとつなげ、全力で取り組んでまいりたいと思っております。

さて、本年は、我々が暮らすこの地が「北海道」と命名され150年という節目の年にあたります。先人が積み重ねた歴史に想いを馳せ、その遺業に感謝しながら、その財産を引き継ぎ未来へとつなげていく、そのようなふるさとへの想いを新たにする年といえます。北海道中学校長会も、数年にわたり進めてきた組織改革の節目を迎え、新たな組織体制をスタートさせる年として、北海道に思いを馳せるのと同様に、先達が積み重ねてきた道中の歴史をしっかりとつなげながら、未来へと新たな道を拓いていかなければなりません。これまで以上に「オール北海道」「チーム北海道」として手をつなげ進んでいき

たいと思っております。

以上のことから、昨年度のスローガンを土台として、今年度は「つなげ合い 新たな道を拓く 道中」というスローガンを掲げさせていただきました。

今年度の本会の活動を推進するにあたり、「新学習指導要領の趣旨の共有と実施に向けた取組」、「いじめ・不登校への対応と命を大切にする指導の推進」、「時間外勤務縮減に向けた取組の推進」、「信頼される学校づくりの一層の推進」の4点を重点項目として示したいと思います。

また、9月に開催される「第60回北海道中学校長会研究大会 十勝・帯広大会」の成功に向けて、会員の力を結集していきたいと考えています。

人口減少社会に突入していく今、私たち校長は、学校教育が北海道の今後の発展の基盤となるという認識の下、全力で取り組むことが必要です。そのためにも、全道の地区がつながり合い、「オール北海道で道産子を育てる」という意識がさらに大切になってくると考えます。「チーム北海道」として様々な思いを共有し、全会員が主体意識を持って道中の新たな道を拓いていけるよう、ご協力をよろしくお願いいたします。

**北海道中学校長会
第91回
総会・研修会**

第91回北海道中学校長会総会・研修会が、4月27日にホテルライフォート札幌を会場に開催された。全道から代議員39名と地区理事20名、その他役員来賓等40名参加した。会長挨拶、感謝状贈呈に続き、北海道教育委員会教育長様等が祝辞を述べられた。北海道教育庁学校教育局指導担当局長様の講話後、議事に入り平成30年度運営方針及び活動重点案、各部業務計画案、会計予算案、第60回北海道中学校長会研究大会十勝・帯広大会等についての審議及び承認後、総会宣言・決議を採択した。また、同日第1回副会長研修会・各専門部研修会も開催された。

**第91回 北海道中学校長会総会・研修会によせて****メッセージ**

平成30年度北海道中学校長会総会の開催を心からお喜び申し上げますとともに、中学校長会の皆様には、日頃から、教育現場において、高い見識と指導力を発揮され、本道の学校教育の充実と発展に多大なご尽力をいただき、厚くお礼申し上げます。

人口減少と少子高齢化が進む中、ふるさと北海道を次の世代にしっかりと引き継いでいくためには、子どもたちが北海道で生まれ育つ喜びや暮らし続けたいという思いを持てるよう、地域への愛着を育むことが大切であり、教育に期待される役割はこれまで以上に大きなものとなっています。

また、子どもたちの学力・体力は、改善傾向にあるものの全国平均には届いていない状況にあり、生活習慣についても、テレビゲームを1日2時間以上すると答えた小中学生が全国を上回る水準で推移するといった課題がみられます。

特に、中学校の3年間は生徒が心身ともに大きく成長し、大人へ向かう多感な時期にあり、家庭や地域との連携を図りながら、豊かな人間性を育むとともに、基礎学力の向上や望ましい生活習慣の定着など、子どもたちの健やかな成長に向けて、更なる取組が求められています。

本年は、北海道命名150年という大きな節目の年です。道といたしましても、社会全体で子どもたちの学びを支える環境づくりに努め、未来を担う多様な人づくりを進めてまいりますので、皆様の一層のご協力をお願いいたします。

結びに、北海道中学校長会の今後ますますのご発展、並びに本日お集まりの皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げ、私からのメッセージといたします。

平成30年4月27日

北海道知事 高 橋 はるみ

宣 言

今日、我が国の教育は人格の完成を目指し、伝統と文化を尊重するとともに、豊かな人間関係で満たされる社会を創るたくましい日本人を育成する使命を担っている。

私たちは、新しい時代の中学校教育の課題に対応し、教育基本法をはじめとする関係法規、学習指導要領等の趣旨を踏まえ、自らの責任において全日中教育ビジョンに基づく学校からの教育改革を推進し、教育の真価を示さなければならない。

また、本道における学校教育には、自然豊かなふるさとに誇りを持ち、将来への夢や目標を実現するために、たくましく生き抜いていく力を身に付けさせる教育の推進が求められている。

北海道中学校長会は、「社会を生き抜く力を身に付け、未来を切り拓く日本人を育てる中学校教育」の推進と、当面する諸課題の解決に努め、新たな中学校教育の創造を目指し、道民の信託に応えることを宣言する。

決 議

第91回総会・研修会にあたり、以下の事項を決議し、その実現を期する。

- 一、人間尊重の精神に徹し、「社会を生き抜く力」を育む教育に努める。
- 一、全日中教育ビジョンを踏まえ、学習指導要領に基づく特色ある教育課程を編成・実施・評価・改善し、確かな学力の定着、豊かな心と健やかな身体の育成に努める。
- 一、現在の学校教育課題に即した研修を充実し、教職員の資質・能力の向上と使命感の高揚に努める。
- 一、創意ある教育活動を展開し、家庭・地域社会の信頼に応える教育を実現するため、人的措置をはじめ確固とした教育諸条件の整備・充実を期する。
- 一、「教科書無償給与制度」、「義務教育費国庫負担制度」及び「人材確保法」の堅持を要請し、国の諸改革の動向を踏まえて、教育水準の維持向上を期する。
- 一、東日本大震災をはじめ災害等による被災地の教育活動正常化への支援と全道各地区・各学校の防災教育の充実と努める。

平成30年4月27日

第91回 北海道中学校長会 総会・研修会

平成30年度 北海道中学校長会 役員及び理事

役 職	氏 名	市町村	学 校
会 長	梶 本 直 樹	留寿都村	留 寿 都
副 会 長	1 プロ 梶 本 直 樹	留寿都村	留 寿 都
	2 プロ 吉 田 瞬 壺	猿 払 村	拓 心
	3 プロ 蓮 本 裕 一	函 館 市	深 堀
	4 プロ 太 田 智 子	奈井江町	奈 井 江
	5 プロ 菊 野 淳 一	北 見 市	小 泉
	6 プロ 木 谷 貢 一	札 幌 市	宮 の 森
事 務 局 長	高 橋 寿 輔	札 幌 市	北 栄
事務局次長	和 田 正 教	札 幌 市	あいの里東
事務局次長	新 沼 潔	登 別 市	緑 陽
会 計 理 事	法 本 明 洋	小 樽 市	銭 函
運 営 委 員	1 プロ 宮 本 元 仁	古 平 町	古 平
	2 プロ 小 澤 洋 一	留 萌 市	港 南
	3 プロ 西 川 良 宏	乙 部 町	乙 部
	4 プロ 大 山 公 敏	苫小牧市	苫小牧東
	5 プロ 東海林 弘 哉	帯 広 市	南 町
	6 プロ 小 澤 保 範	札 幌 市	屯 田 北
地 区 理 事	石 狩 新 田 元 紀	江 別 市	江別第一
	札 幌 市 葛 西 孝 之	札 幌 市	宮 の 丘
	後 志 中 村 寿 樹	仁 木 町	銀 山
	小 樽 市 黒 川 裕 之	小 樽 市	松 ケ 枝
	上 川 安 達 啓 一	東 川 町	東 川
	旭 川 市 伊 東 義 晃	旭 川 市	中 央
	宗 谷 加 賀 誠	枝 幸 町	枝 幸
	留 萌 外 山 一 正	留 萌 市	留 萌

役 職	氏 名	市町村	学 校
地 区 理 事	檜 山 塩 崎 弘 明	厚沢部町	厚 沢 部
	渡 島 海 野 厚 二	北 斗 市	上 磯
	函 館 市 風 間 和 夫	函 館 市	本 通
	空 知 鎌 田 浩 志	岩見沢市	北 村
	胆 振 伊 藤 博 明	室 蘭 市	桜 蘭
	日 高 松 田 拓 美	平 取 町	振 内
	十 勝 小 澤 一 記	士 幌 町	士幌町中央
	帯 広 市 辻 野 裕 義	帯 広 市	帯広第二
	釧 路 松 村 浩 二	浜 中 町	茶 内
	釧 路 市 室 山 俊 美	釧 路 市	幣 舞
	根 室 志 道 仁	根 室 市	柏 陵
	オホーツク 北 野 浩 幸	網 走 市	第 一
経 営 部	副 部 長 三 浦 利 章	江 別 市	大 麻
	幹 事 三 浦 崇 史	石 狩 市	厚 田
	幹 事 佐 藤 誠	千 歳 市	北 斗
研 修 部	副 部 長 木 村 佳 子	札 幌 市	常 盤
	幹 事 越 田 公 美	札 幌 市	白 石
	幹 事 笹 川 恒 春	札 幌 市	発 寒
対 策 部	副 部 長 岩 田 克 範	美 唄 市	南 美 唄
	幹 事 庄 司 直 樹	岩見沢市	東 光
	幹 事 田 村 和 幸	南 幌 町	南 幌
情 報 部	副 部 長 大 村 浩 喜	苫小牧市	光 洋
	幹 事 山 田 誠 一	室 蘭 市	港 北
	幹 事 立 花 和 実	伊 達 市	伊 達

第91回 北海道中学校長会総会
感謝状贈呈者芳名

ご指導ありがとうございました

【退会者】

役 職	氏 名	学 校 名	経歴(数字は年度)
会 長	古 谷 雅 幸	札幌市立中の島中学校	会長②, 事務局次長②, 情報部②, 対策部②, 経営部②
副 会 長	河 原 政 志	岩見沢市立緑中学校	副会長②, 地区理事②, ③
〃	中 村 勝 治	当麻町立当麻中学校	副会長②
〃	本 間 玲	札幌市立山鼻中学校	副会長②
会計理事	尾 崎 基	札幌市立陵北中学校	会計理事②, 経営部②, ③, 研修部②, ③
地区理事	岩 田 俊 二	旭川市立北星中学校	地区理事②, ③
〃	笹 木 卓 三	帯広市立第一中学校	地区理事②, ③

役 職	氏 名	学 校 名	経歴(数字は年度)
地区理事	古 川 幸 宏	網走市立第一中学校	地区理事②, ③
〃	毛 利 繁 和	函館市立本通中学校	地区理事②, 運営委員②
〃	奥 山 る み 子	常呂町立上常呂中学校	地区理事②, ③
〃	土 佐 林 仁	札幌市立伏見中学校	地区理事②
〃	青 坂 信 司	別海町立別海中央中学校	地区理事②, ③
〃	福 田 信 正	小樽市立菁園中学校	地区理事②, ③
幹 事	原 努	札幌市立日章中学校	対策部②, ③, ④, ⑤

※役職名については、直近に担当した役職の順に作成しました。

平成30年度 北海道中学校長会 運営方針及び活動の重点

激動する国際社会において、我が国では、21世紀にふさわしい、持続可能な社会の仕組みを構築するため、行財政改革、規制緩和、地方分権などの動きが進行している。

教育界においては、教育基本法及び教育関連法規の改正、教育再生実行会議の諸提案、教育振興基本計画策定など一連の教育改革が行われ、平成29年3月に告示された新学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」及び「主体的・対話的で深い学び」の実現、「カリキュラム・マネジメント」の確立が求められるなど、学校教育は新たな変革の時期を迎えている。

私たち校長は、中学校教育の課題を踏まえ、人間尊重の精神に徹し、「社会を生き抜く力」を育む教育を推進し生徒・保護者・地域の信頼と期待に応えるため、学校からの教育改革を実行するとともに、「学校における働き方改革」を推進し、新しい時代に求められる学校づくりに向けて、これまで以上にリーダーシップを発揮し、より一層の充実に努めなければならない。

本道教育の重点課題である「社会で自立して生きていく上で必要な学力や体力の向上」に向けては、校長会の使命である「教育の質の向上」を目指し、『チーム北海道』として地域・保護者、関係機関・諸団体の御理解と御協力、御支援をいただきながら、授業改善や学校改善に粘り強く着実に取り組んできたところであるが、実践もあり理論もある有言実行の教育の実践的専門家集団として、今後も不断の努力を積み重ねていかなければならない。

また、東日本大震災をはじめ災害等により被災した地域の復興を期し、教育活動の充実や災害の風化防止に向け、引き続き全力で支援するとともに、今後起こりうる災害に対し、能動的に対応できる生徒を育成するため、各地区・各学校の防災教育・安全教育のさらなる充実を図る必要がある。

以上の認識に立ち、北海道中学校長会は、「全日中教育ビジョン～学校からの教育改革～（平成28年度改訂版）」の内容を踏まえ、以下の運営方針並びに活動の重点等に基づいて校長としての主体性と指導性をもち、会員相互の連携のもと本道の中学校教育を推進し、道民の信託に応えたい。

1 運営方針

- (1) 校長相互の協力や信頼関係を一層深めるとともに、今後に向けた組織の充実・強化を図り、会の総力を結集して活動の効率化と諸問題の解決に努める。
- (2) 道教委をはじめ、全日中、四種校長会等の教育関係諸機関・PTAをはじめとした諸団体と緊密に連携して教育課題の解決に当たるとともに、家庭や地域に信頼される学校づくりに努める。
- (3) 校長としての使命を自覚し、学校の自主性・自律性のもとに学校経営の改善・充実に努める。

2 活動の重点

- (1) **新たな校長会組織の一体化に取り組みながら、活動の充実に努める。**
 - ①校長会の組織が一体となった活動の推進並びに活動内容の充実
 - ②広報活動の充実、各種調査内容の改善・充実及び諸資料の有効活用の推進
 - ③教育関係諸機関、道小学校長会等の諸団体との連携強化
 - ④組織としての連携を重視した会務運営及び地区運営の円滑な実施
 - ⑤今後の状況を見通しての円滑な組織体制及び運営方法の見直し
- (2) **教育課題の解決を図り、学校経営の改善に努める。**
 - ①全日中教育ビジョン（平成28年度改訂版）を踏まえた学校からの教育改革の推進
 - ②「第60回北海道中学校長会研究大会十勝・帯広大会」の開催
 - ③時間外勤務縮減に向けた諸問題・諸課題への適切な対応
 - ④学校運営研修・初任者段階研修・中堅教諭等資質向上研修等の各種研修会の適切な運営と内容の充実
 - ⑤教員免許更新制に関わる諸問題・諸課題への適切な対応
 - ⑥学校職員評価制度における教職員の意欲を高める効果的な活用の在り方
 - ⑦学校評価の効果的な運用と学校の活性化
 - ⑧部活動の諸条件の整備と充実に向けた在り方の検討
 - ⑨体育・文化活動の振興と支援
- (3) **教育課程の整備と充実、特色ある学校づくり、確かな学力の定着と伸長、体力の向上に努める。**
 - ①適正な教育課程の編成・実施・検証とさらなる改善
 - ②確かな学力の定着と伸長、体力の向上への取組、

健全育成、進路指導、特別支援教育、情報教育等の充実を図る特色ある教育課程の編成・実施

- ③基礎・基本の確実な定着を図る指導と活用する能力及び主体的に学習する態度を育てる指導及び評価の改善・充実
- ④地域学校協働本部やコミュニティ・スクールの導入等、学校・家庭・地域社会が一体となった創意工夫ある教育活動の推進
- ⑤地域の活性化に寄与する小中連携・一貫教育の推進
- ⑥豊かな心と健やかな体を育てる道德教育・健康教育・食育の充実
- ⑦いじめ、不登校の問題への適切で迅速な対応と生徒指導体制の強化
- ⑧進路指導に関する諸課題の解決
- ⑨多様化した高等学校教育並びに入学者選抜方法への適切な対応
- ⑩防災教育・安全教育の推進

(4) 円滑な教育活動推進のための教育諸条件の整備・充実に努める。

- ①教職員定数の改善、少人数学級の実現
- ②特別支援教育の充実のための条件整備
- ③免許教科外教科担任の解消並びに時間講師制度等の充実
- ④僻地校、併置校等における教育推進のための諸条件の改善・充実
- ⑤体験的な活動の充実と条件整備
- ⑥「特別の教科 道德」の推進に向けた研修の充実
- ⑦校長の人事具申権の尊重と人事異動要綱に基づく適正な配置
- ⑧校長・教頭・主幹教諭等候補者の選考方法の検討・改善
- ⑨広域人事、管理職の管外交流の推進と条件整備

(5) 教職員の服務規律の徹底、教員の職責に見合った待遇改善に努める。

- ①教職員の服務規律の遵守と法規法令に基づいた適切な学校運営
- ②不祥事の根絶に向け、教職員の意識改革や自覚を促す指導の徹底
- ③「義務教育費国庫負担制度」並びに「人材確保法」の堅持と教育水準の整備・充実
- ④給与制度の見直しによる校長・教頭の待遇改善
- ⑤特別支援学級設置校及び小中併置校の校長・教頭の実態に見合った待遇改善

各部業務計画

経営部

1 方針

本会の運営方針・活動の重点を受け、学校経営に法的根拠を据え、教育活動の充実に努める。

- (1) 教育制度、関係諸法規の情報収集と情報の提供、資料化に努める。
- (2) 学校経営上の諸問題や管理運営に関する法制研究を行い、その解決に資する。
- (3) 諸会議等を通じ、会員相互・地区との情報交換を図り、組織の連携・充実・発展に努める。

2 業務計画

(1) 諸会議の開催

① 経営部研修会

第1回経営部研修会 4月27日(金)

方針、業務推進計画の検討

第2回経営部研修会 2月15日(金)

年度反省、次年度への課題・展望とまとめ

② 小中合同学習会 7月13日(金)

質問・要望に対する学習会、道小と連携

(2) 法制研修会、地区別教育経営研究会の開催（今年度は道小が担当）

① 法制研修会の開催について

- ・単独開催の期間は、8月までを原則とするが、遅くとも10月までには完了する。
- ・講師・助言者は、各地区で確保する。
- ・法制研修会の会場費は、各教育局に請求する。（地教委との事前確認が必要）
- ・道中事務局からの役員の派遣は、原則として行わない。

② 地区別教育経営研究会の開催について

- ・開催期間は、原則として8～10月の3か月間とする。

ただし、9月下旬又は10月上旬の木金曜日は学校行事と重なるためできる限り避け、夏季休業中の期間が望ましい。

- ・法制研修会と合同開催の場合、開催計画書（様式1）に法制研修の項目を入れて提出する。
- ・地区別教育経営研究会には、合同開催であっても、道中事務局より、役員を派遣することを原則とする。
- ・派遣役員の任は、各地区へのお礼や激励及び情勢報告や質問等に対する回答が主であり、講師を目的とした派遣ではない。
- ・事前に各地区から「質問・要望事項」（様式2）を集約し、それに対する調査研究を行い、回答をする。
- ・事前に派遣される担当幹事と地区担当者が綿密に説明時間、質疑の時間等を打合せ、各地区のニーズに合った研究会になるようにする。
- ・会場費については、日本教育公務員弘済会北海道支部に請求すると、運営費として補助される。ただし、事前の申請が必要となる。

(3) 法制研究集録（今年度は道中が担当）及び学校経営の資料（今年度は道小が担当）の編集

- ・法制研究収録第49集（補遺集）は道中が担当し、2月発行予定。
- ・学校経営の資料は道小が担当し、7月中旬以降に各地区校長会へ送付予定。
- ・予算の関係上、前年度よりページ数を増やさないよう工夫する。

(4) 関係諸団体との連携（日本教育会他）

研修部

1 方針

平成28年度からの基本主題『社会を生き抜く力を身に付け、未来を切り拓く日本人を育てる中学校教育』のもと、道中研究大会において研究交流を深めると共に、各地区における研究を基盤とした研究活動の充実に努め、校長としての識見や指導力の向上を図る。「全日中教育ビジョン～学校からの教育改革～平成28年改訂」の内容を踏まえた研究活動を更に推進し、学校経営の充実に寄与する。

教育課程の編成・実施に資する調査研究を推進し、今日的課題の解明に努め、学校教育の推進と向上に役立てる。他部との連携を図り、業務の円滑な推進に努める。

- (1) 第69回全日本中学校長会研究協議会鳥取(米子)大会の円滑な運営と研究内容の充実に努めるために、開催地区並びに各地区研修担当者との連携を密にする。
- (2) 第60回北海道中学校長会研究大会十勝・帯広大会の円滑な開催及び研究活動の充実に向け、帯広市校長会との連携を密にする。
- (3) 平成30年度の研究を総括し、2019年度「研究の手引き」の作成作業を行う。
- (4) 教育課程に関する情報収集、調査研究に努め、中学校教育における今日的課題を明らかにし、問題点の解明に寄与する。

2 業務計画

(1) 諸会議の開催

① 第1回研修部研修会

4月27日(金)

- ・研究方針、業務推進計画及び業務推進について
- ・第69回全日中研鳥取(米子)大会について
- ・2019年度「研究の手引き」の作成について
- ・教育課程に関する調査について（平成29年度調査の振り返りと2019年度調査実施に向けて）
- ・第60回道中研十勝・帯広大会に向けて
- ・各地区研究推進状況や平成30年度の研究計画について

② 道小道中合同研修会（学習会）

7月13日(金)

③ 道中研究大会合同研修会

（提案者・司会者等打ち合わせ会） 8月8日(水)

④ 道中研究大会全体研修会

（十勝・帯広大会→空知大会）

11月9日(金)

⑤ 第2回研修部研修会

2月15日(金)

- ・年度末反省、次年度への課題の検討と展望・まとめについて
- ・2019年度第61回北海道中学校長会研究大会空知大会（9月27、28日）について
- ・2019年度「研究の手引き」について
- ・2019年度第70回全日本中学校長会研究協議会群馬大会について
- ・教育課程に関する調査について（H29年度実施の振り返りと2019年度実施に向けて）
- ・各地区研究推進の交流について

(2) 研究活動の推進

- ① 第60回道中研十勝・帯広大会と第69回全日中研鳥取(米子)大会の円滑な運営と研究内容の充実に努めるため、当該実行委員会との連絡・情報交流を積極的に行う。また、道中研分科会提言及び全日中研提案に向けて、研修部として担当地区や発表者へのサポートをできるだけ早目に行っていく。

② 研究資料及び情報の提供、研究校の紹介、その他、研究活動の推進

③ 各地区研究推進の状況や各地区研究成果の交流を推進

④ 教育課程に関する調査と結果の分析、2019年度調査に向けての調査内容の検討

(3) 関係機関との連携・調査、その他

- ① 文部科学省や北海道教育委員会、市町村教育委員会はじめ、全日中等の関係機関との連携や調査依頼について、各地区研修部担当者の協力のもと推進する
- ② 第60回道中研十勝・帯広大会の成功に向け、実行委員会との連携を密にし、研修部をあげて積極

的にサポートを行う

- ③ 第69回全日中研鳥取(米子)大会事務局との連携や全日中事務局、各地区研修部担当者等との研究や研修に関する情報交換や連絡・調整を推進する
- ④ 教育関係団体との連携・調整を推進する

対策部**1 方針**

本会の運営方針、活動の重点を受け、学校運営上の問題について調査研究を推進し、学校経営の向上に役立てる。また、会員の職責に見合う福利厚生・待遇改善に関する業務を推進する。

- (1) 中学校の実態や生徒指導等に関する情報収集、調査研究と、資料作成、情報提供に努める。
- (2) 会員の福利厚生・待遇改善に関する問題解決・改善に向け、関係機関との連携強化に努める。
- (3) その他、緊急性のある課題や各種調査、情報に関することの対応と研究を推進する。

2 業務計画**(1) 諸会議の開催**

- ① 対策部研修会
 - ・第1回対策部研修会 4月27日(金)
方針、業務推進計画の検討
 - ・第2回対策部研修会 2月15日(金)
年度反省、次年度への展望とまとめ
- ② 小中合同学習会 7月13日(金)
道小との連絡、調整、情報交換(地区別教育経営研究会に向けての学習会)

(2) 関係調査・資料作成の業務

- ① 新「生徒指導に関する調査」

…[依頼5月、回収8月、結果・分析9～10月、編集11月、報告書発行12月中]

- ② 「全日中諸調査」 ※各調査の発出時期は年度によって変わる。
…[教育研究部調査、生徒指導部調査9月、給与対策部調査11月、他]
- ③ 「退職関係資料」(全道中運営要綱に掲載)
…[資料の更新4月]

(3) 関係諸団体との連携

- ① 北海道教育委員会 学校教育局(義務教育課、特別支援教育課、健康・体育課)
北海道総務政策局・教育職員局(教職員課、福利課、給与課)
- ② 北海道公立学校教職員互助会
- ③ 北海道退職校長会
- ④ 社団法人北海道退職公務員連盟

情報部**1 方針**

本会の運営方針と活動の重点を受けて、広報活動のより効果的な業務推進を図り、会員意識の高揚並びに組織活動の強化に努める。

- (1) 広く、本会活動の状況や関係機関の情報、各種資料等を提供する。
- (2) 各地区の活動や会員の研究成果論説等の交流を図るとともに、各界から教育に寄せる意見等も掲載し、会員の職能向上に努める。
- (3) 教育関係機関・団体との情報、資料の交流並びに相互の連携・協調を図り、教育世論の喚起に努める。

2 業務計画**(1) 諸会議の開催**

- ① 情報部研修会(定例2回)
 - 第1回 4月27日(金)
本年度の活動方針、業務推進計画等
 - 第2回 2月15日(金)
本年度の活動反省、来年度への展望等
- ② 編集会議(随時)
- ③ 道小中合同事務局研修会、学習会 7月13日(金)

(2) 機関紙等の編集・発行

- ① 「道中総会・研修会要項」の編集、発行
(4月20日(金)各地区へ発送予定)
平成30年度「第91回総会・研修会要項」の発行
(4月27日(金))
2019年度「第92回総会・研修会要項」の編集
(2019年4月発行)
- ② 会報「道中だより」の発行
定期 第362号～第365号(年度内4回発行)

- ③ 号外「道小情報・道中だより」の発行(2回 道中が担当する。なお、校正作業は道小、道中が協力して行う)

道文教政策に関する道教委との懇談の結果

- ④ 会誌「全道中」第88号の編集・発行(3月)
今日的課題をテーマとした特集記事を予定

(3) HPの充実

本会活動の状況や各地区発行機関紙、会報等の交流、関係機関の情報、各種資料等の提供の場としての運用、タイムリーな更新

(4) 全日中機関紙「中学校」の編集協力

「校長会だより」「私の納戸」「主張」「研究大会報告」「私の学校経営」等に関し、全日中編集部協力委員として、執筆割り当てを計画、依頼

(5) その他

- ・事業、活動の記録

未来を創る子どもたちに 責任をもつ学校経営の推進

上川・山部中 **大 場 八 仁**

上川管内校長会は、安達啓一会長のもと、新会員25名（新採用20名）を迎え、22市町村97名の会員で今年度の活動をスタートした。

本会は、大きな組織改革に基づく業務推進が3年を経過し、迅速な情報共有と組織的な対応に努めてきた。しかし、上川教育が伸び悩んでいるとの声もあり「再び北海道教育をリードしていく上川」を目指す取組を重点の一つに掲げ、先達が築きあげてきた質の高い学校経営を基盤に「愛情と信頼」「研さんと結束」を合い言葉に、一層学校の教育力を高める。

【活動の重点】

- 1 「愛情」と「信頼」に基づき、創意に富む信頼される学校経営の充実に努める。
- 2 校長自ら「研さん」に励むとともに、教職員の一層の資質・能力の向上に努める。
- 3 組織活動の充実と確かな情報共有を図り、会員の「結束」を強化するとともに、教職員の処遇改善に努める。
- 4 上川教育局・地教委及び道小・道中、教育関係機関・団体と連携し、教育課題の解決及び再び北海道教育をリードしていくことに努める。

信頼される中学校教育の創造を目指し、 「知恵を結集して、さらに、前へ」

旭川市・神楽中 **田 中 義 彦**

旭川市中学校長会は、伊東義晃会長のもと、新会員9名（新採用6名）を迎え、28名の会員で新年度の活動を開始した。「知恵を結集し、さらに、前へ」を基本姿勢と定め、旭川市教育大綱の基本方針「主体的に学び力強く未来を拓く人づくり」の具現化のため、校長会組織の一層の活性化を図っている。

教育改革の動向を見極めながら、会員相互の真摯な研さんと連携を図り、次のような運営方針を掲げ、中学校教育の充実・発展に努めている。

【運営方針】

- 1 旭川市民の願いや期待に応え、信頼される中学校教育を目指し会務の推進に努める。
- 2 中学校長としての使命を自覚し、時代の進展に対応する中学校教育の在り方を見極め、その充実・発展に努める。
- 3 教育改革の内容を適切に見極め、具体策をもって、主体的にその取組を進める。
- 4 旭川市教育委員会を始め、関係機関等と緊密に連携し、教育諸課題への適切な対応に努める。
- 5 校長としての資質向上を図る研修に努める。
- 6 会員相互の連携を図り、活動の活性化に努める。

地 区 だ よ り

宗谷の風土に根ざした 豊かな教育に挑戦！

宗谷・枝幸中

加賀 誠

宗谷校長会は、11名の新会員を迎え、55名の会員で新年度の活動をスタートした。

本会は、結成以来「宗谷の風土に根ざした豊かな自然に育む子ども」というテーマを掲げ、社会の変化に伴う学校教育の諸課題を正面から受け止め会員相互が研さんに励み自らの職能の向上と学校運営の課題解明を図ると共に、今年度も「宗谷はひとつ」を合い言葉に管内教育の充実・発展に努めていく。

【運営方針】

- 1 職能向上に努め保護者や地域に応える学校経営
- 2 活動の活性化を図り宗谷教育の充実・発展
- 3 連携を図り、教育条件整備に努める

【活動の重点】

- 1 「生きる力」を育む教育課程の編成・実施・評価改善に努め、愛情と信頼に基づく活力ある学校経営の推進に努める
- 2 研修活動を充実し、職能向上と、教職員の資質・能力の総合的な向上に努める
- 3 関係機関・団体と連携し、教育条件と教育諸課題の改善と整備・充実に努める
- 4 校長会の組織を強化し、活動の活性化を図る

ふるさとの未来を考える子どもの 育成を目指して

留萌・羽幌中

富 田 正 夫

留萌管内小中学校長会は、新たに採用校長1名を迎えたものの、昨年度より1名減の会員27名（小学校16名、中学校10名、併置校1名）でのスタートとなった。

本会は、活動指針「和心一統」の精神を堅持し、留萌教育の推進テーマ「ふるさとの未来を考える子どもの育成」の実現に向けて、少人数の利点を生かした風通しの良い組織運営とダイナミックな活動を心がけている。本会は、研究部、組織部、広報部の3部体制によって活動の具現化を図る。研究成果の確認の場となる教育研究協議会の開催や組織強化と福利厚生の実施に向けた情報交流の機会となる地区教育経営研究会、年4回の会報発行をはじめとする会員相互の情報交換・交流の活性化に努めるものである。総会では、下記の4点を今年度の重点として活動することが確認された。

【活動の重点】

- (1) 教育改革を具現化する学校経営に努める。
- (2) 研修活動の充実と効率的な環流に努める。
- (3) 組織の強化と活動の効率化に努める。
- (4) 教職員の待遇改善に努める。

檜山の教育 充実・発展のため ～たくましい児童生徒の育成～

檜山・大成中 **大口 久 克**

檜山校長会は、小学校20名、中学校10名合計30名で組織されている。「自己実現に向けて夢に挑戦し、未来を切り拓くたくましい児童生徒」を育む学校経営の在り方を究明し、保護者や地域住民の負託と信頼に応えるため、校長の権限と責任のもとに指導力を発揮して教職員の力量を高め、学校力の向上に努めている。

【活動の重点】

- 1 組織マネジメントを活かした活力ある学校経営の推進
- 2 「生きる力」を育む適切な教育課程の編成・実施・評価・改善
- 3 時代の変化に即した生徒指導や特別支援教育の組織的推進
- 4 教職員の資質・能力の総合的な向上
- 5 服務規律の厳正な保持
- 6 組織活動の活性化と充実
- 7 ミドルリーダーならびに管理職候補者の育成
- 8 危機管理の徹底と安全教育の充実
- 9 檜山校長会の充実・発展を図る特別委員会の設置

『オール渡島』をキーワードに 学校・家庭・地域の信頼に応える教育の展開

渡島・上磯中 **海野 厚 二**

渡島小中学校長会は、竹嶋充会長（七飯町立藤城小学校）の下、10名の採用校長と7名の転入校長、合計17名の新会員を迎え、62名でスタートを切りました（小43、小中併置1、中18）。

【運営方針】

- 1 創意と秩序ある渡島小中学校教育の充実と発展に努める。
- 2 教育の動向を踏まえ、教育関係機関・団体との連携を強化し諸課題の解決に努める。
- 3 創意と調和のある学校経営の充実に努める。
- 4 渡島の未来を創造する子どもたちを育成する教育課程を編成し、その実践と評価に努める。
- 5 子どもの自己実現を目指す積極的・開発的な生徒指導に努める。
- 6 会員個人や共同の研修を通し、校長としての識見や指導力の向上に努める。
- 7 教職員の意識改革と資質の向上を図るとともに、後継者の育成に努める。
- 8 教育条件整備と福利厚生施策の充実に努める。
- 9 渡島小中学校長会の組織の強化と活動の充実に努める。

地 区 だ よ り

生徒の夢と希望の実現に向け 残し伝える、責任ある学校経営を推進

函館市・本通中学校 **風間 和 夫**

函館市中学校長会は、5名の新会員を迎え、会員数21名で今年度開始した。再編統合により4校減となったが、蓮本裕一校長の強いリーダーシップのもと、組織を挙げて「学校力の向上」、「信頼される学校の構築」などに取り組んでいる。日本の未来である生徒の夢と希望の実現に向け、会員の知恵と力を結集し、函館の教育の充実に貢献したいと考える。

1 基本方針（要約）

- ・校長会の組織を機能させ、教育課題を解決
- ・「信頼される学校づくり」の創造
- ・関係機関との連携、教育条件の整備充実

2 活動の重点（要約）

- ・CSを生かした学校の在り方に関する研修
- ・ネットワークによる教育課題、経営課題の解決
- ・学校力の向上を図る各評価の充実と活用
- ・実践交流に基づくリスクマネジメントの研修
- ・市教委、幼小中高との一層の連携
- ・校長職能向上と後継者育成に資する研修
- ・函館市教育振興基本計画と自校の経営の融合

“ふるさと空知を愛する人を”

～空知の子どもたちの健やかな成長を～

空知・岩見沢東光中 **庄 司 直 樹**

空知校長会は、高橋信会長のもと、新会員21名を迎え、24市町・109名の会員で平成30年度の活動をスタートさせた。

今年度、空知校長会の基本主題である「新たな知を拓き、人間性豊かな社会を築く、日本人の育成を目指す学校教育の推進」を具現化するために、常に「研さん」に励み、校長自らの職能向上に努めるとともに、会員相互はもとより、関係機関との「連携」を図り、組織の一層の充実・強化を図っていくこととした。

組織力と連携力を発揮しながら、「ふるさと空知を愛する人を」をキーワードに、「空知の子どもたちの健やかな成長」を願って、「空知の教育の充実・発展」に全力で邁進していく決意である。

【活動方針】

- 1 継続した研さんの積み重ねと学校の自主性・自律性を発揮しての学校経営の改善・充実
- 2 会員相互の協力や信頼関係を基盤とした組織の充実・強化と組織運営の効率化
- 3 関係機関との連携強化による教育課題解決と信頼される学校づくりの推進

管内教育の充実・発展を 支えるために『学び続ける校長で』

胆振・勇払中 加 藤 悟

胆振管内校長会は、会長2年目となる渡辺一弘会長のもと、新会員13名（採用9名）を加え、閉校4校、開校1校となり、11市町の小・中学校長116名の会員で、今年度の活動をスタートした。

本会の理念と会員個々の教育に対する深い愛情を礎として、管内教育の充実・発展を支えてきたという自負をもち、教育の今日的課題の解明に先導的な役割を果たすため全力で取り組んでいく。

【活動方針】

- 1 校長としての職能向上を図る研修の充実
- 2 学校経営の適正化を図る研究・実践及び教育条件の整備・充実
- 3 教職員の意識改革と資質能力の向上による学校改善と後継者の育成
- 4 道小・道中、第4ブロック、各市町校長会との組織的な連携の重視と行政諸機関並びに関係団体との連携の強化
- 5 会員同士の親睦と福利厚生の実施に関する事業の推進
- 6 諸事業の機能的・効率的な運営改善と予算執行の適正化

教育課題の解決に向けて

～校長としてのリーダーシップを発揮しながら～

日高・振内中 松 田 拓 美

日高地区校長会は、奥村尚久会長のもと、6名の新会員を迎え（小学校5名、中学校1名）、小学校長27名、中学校長15名の計42名で組織されています。基本方針は昨年度を踏襲しながらも、刻々と変化する教育情勢を踏まえながら、さらなる改革を進めています。

管内の喫緊の課題である学力向上については、「学力向上委員会」を起ち上げ、管内実践事例集の作成、還流を行い大きな成果を上げました。

今年度も管内的な課題と正対し、組織的にその解決に向けて、「特別委員会」の発足や関係機関との連携を図りながら、校長としてのリーダーシップをより一層発揮し、会員の総力を結集して取り組んでいきます。

【活動の重点】

- 1 信頼と秩序に基づく学校経営の推進
- 2 社会に開かれた教育課程の編成・実施・評価・改善
- 3 教職員の資質・能力の向上と後継者育成
- 4 校長の研修活動による職能向上と組織体制の強化

地 区 だ よ り

「情熱と覚悟」をもって

十勝・上美生中 竹 田 義 隆

十勝小・中校長会は、十勝管内18町村の小・中学校長100名で組織されている。4月11日に総会を開催し、今年度の活動がスタートした。

本会は、「子どもの成長の歴史に責任を負う」という校長の教育実践指標（昭和55年制定）を掲げ、会員相互の研さんに励み、公教育の役割と使命の遂行に努めてきたところである。今年度も諸先輩が築き上げてきた「十勝ならではの教育」を継承するために、「情熱と覚悟」を合言葉に、組織として総力を挙げて十勝教育の発展に寄与する諸活動を推進する。

【活動の重点】（要約）

- 1 創意工夫に満ちた特色ある学校経営に努める。
- 2 当面する学校運営上の諸課題の解決に努める。
- 3 協働体制の確立と信頼関係の深化を図り、組織体としての機能の充実に努める。
- 4 研修を深め、主体性を確立し、教育上の諸問題の解決に努める。
- 5 地域社会・関係機関との連携を強化し、教育諸条件の整備に努める。
- 6 待遇改善・福利厚生等の向上を図るため、情報交換と要望活動の充実に努める。

つなぎ合い、新たに道を拓く校長会

帯広市・南町中 東海林 弘 哉

辻野裕義会長（帯広第二中）以下、14名の会員による組織体制も2年目となった。今年度は、道中研究大会の主管と、帯広市校長会の基本方針『新しい時代を切り拓く帯広っ子の育成』のもと、帯広市民の負託に応える活動を、並行して行っている。

今年度は、道中とともに『つなぎ合い、新たな道を拓く校長会』を踏まえて、これまでの伝統や精神を継承するとともに、新しい時代にふさわしい会務の在り方を創造する。また、校長相互の信頼と協働を大切にしたい体制整備により組織強化を図るとともに、関係機関との連携と協働を視野に入れた会務の効率化と諸課題の解決に努める。

【活動の重点】（要約）

- 1 教員の働き方改革について検証し、新しい時代に求められる学校づくりを支援する。
- 2 これからの生徒に必要な資質・能力を明らかにし、社会に開かれた教育課程を踏まえたカリキュラム・マネジメントの展開と特色ある学校づくりを支援する。
- 3 教育諸条件の整備と充実に努める。
- 4 組織的に、教職員の不祥事防止に取り組む。

〈論 文〉

『豊かな心や知恵を育む方略と評価が適切に位置づけられた教育課程の
編成・実施・評価・改善』～生徒の主体性と自己肯定感を育む教育活動の充実～

釧路市立景雲中学校 秋 保 和 久

1 はじめに

より良く「生きる力」や変化の激しい時代を「生き抜く力」を育む上で、生徒の主体性と自己肯定感を高めることは、究極の課題である。主体性を持って物事に取り組むことが自己肯定感を高め、自己肯定感が高まれば、さらなる主体性へとつながる。

そのため本校では、知・徳・体の調和が図られた教育課程を編成・実施するとともに、評価（調査）結果を具体的な改善策へつなげる中で、生徒の主体性と自己肯定感を高めることを教育活動の最重要課題として以下の取組を進めている。

2 より良い学校づくりに向けた取組の概要

(1) 校長のリーダーシップと学校力の向上

①学校評価を基軸とした組織マネジメント

- ア 課題と目標の明確化と共有
- イ 評価サイクルの確立（実施時期・回数）
- ウ 評価項目（重点項目との整合性）
- エ 成果と課題、改善ポイントの焦点化
- オ 改善点を分掌部会やブレストで交流
- カ 教育課程プロジェクト委員会で検討

②ミドルリーダーを中核とした組織運営

- ア ミドル・アップダウン・マネジメント
- イ 主幹教諭の機動性と管理職の関わり
- ウ 期首・期末面談の効果的な活用
- エ 適材適所の人材配置（相互補完）
- オ 「景中TODAY」の有効活用
- カ 情報の共有による同僚性の向上

(2) 具体的な実践内容

①教育課程の編成・実施・管理

- ア 教育課程プロジェクト委員会による日課表及び学校行事の検討・提案
- イ 週プロとシラバスに基づいた授業時数の確保及び授業進度の管理の徹底
- ウ 学力向上に向けた取組の改善・充実

②確かな学力の育成に向けた本気の取組

- ア 全国学力・学習状況調査、CRT、知能検査等の結果分析と成果・課題の共有
- イ 家庭学習ノートの指導の充実
- ウ 放課後学習サポートルームの開設
- エ 長期休業中の補足的な学習指導
- オ 研修の充実（研究指定校⇒意識改革）
- カ 「KEIUN」タイムの取組

③豊かな心の育成に向けた生徒指導の充実

- ア Q-U・アセス、担任への手紙を活用した生徒理解研修・教育相談活動の充実
- イ いじめ・不登校等の早期発見・早期対応に向けた交流会議の開催（月1回）
- ウ きまりとマナーの定着に向けた初期指導・共通指導の充実（部活動委員会）
- エ 生徒主体の活気ある校風づくり
- オ 学年別道徳ローテーション
- カ 全校道徳（土曜活動日に地域公開）
- キ 通級指導教室（景中スタイル）の確立

3 取組・実践の課題と展望

(1) 学力向上に関する取組

「確かな学力の育成」に向けた本気の取組は不易の課題である。学力の二極化及び学年差に応じた対応として、現在実施している「KEIUN」タイムの取組内容（学び直しと定着を図る場面設定）を工夫改善していきたい。また、学びをつなぐ小中連携についても、校区小学校と協力しながら進めていきたい。

(2) 手応えをより確かなものに

校長のリーダーシップが強く求められる中、その力を発揮するためには、校長が「大事にしたいこと」、「経営上実践したいこと」と教職員が「必要だと感じていること」に、大きなズレがないことが極めて重要である。そのためには、的確な情報収集による現状把握の中で「目指す生徒の姿」を設定し、課題と具体策を教職員全体で共有することが大切である。また、校長が示す学校改善のポイントは、ミドルリーダーの経営参画意識を高めるためにも、大ざっぱ過ぎず、具体的過ぎない内容であることが望ましい。

加えて、学校人事評価の期首・期末面談を効果的に活用し、思いや願いを共感的に受け止めつつ、課題解決に向けて教職員個々のモチベーションを高めていくことが大切である。

「より良い学校づくり」に向けたここ数年来の取組の成果が、生徒の姿や学校評価、各種調査結果の数値にも現れ始め、教職員が手応えを感じている。今後も生徒の主体性と自己肯定感を育む教育活動の充実へ向けて、「継続」と「修正」をキーワードにより確かなものにしていきたい。



初任の学校は、利尻島の小さな中学校であった。そこに赴任してくる教員は、新採用者か退職間近の教員ばかりである。当時は、稚内から利尻島までフェリーで2時間弱、鴛泊港から校区までは車で1時間。そんな所なので、希望してくる教員は少ない。生活してみると、四方は海、中央には利尻富士がそびえ立ち、「なんて自然豊かで、のどかな地域なんだ」と感じるが、だまされてはいけない。冬になると冷たい北風が吹き荒れ、海は大しけが続く。白い水しぶきを上げているのが、海岸から200mほど奥にある職員室の窓から分かるほどだ。校歌にある「♪荒海は～果てなく伸びて～絶え間なき～波のうねりよ♪」の通りだ。2～3日船の欠航が続くと、なぜか取り残されたように感じ、閉塞感で心がいっぱいになる。保護者の大部分は、漁師である。気は優しいが、言葉は荒い。「海に命を懸ける」、格好よく聞こえるかもしれないが、後を継ぐ者が少ない。そんな地域柄だが、本道の流行はすぐに島の子どもたちへも伝わっていた。短ラン、ボンタン、教員への反抗等、学校は乱れていた。昭和60年代前半は、そんな学校が多かったのではないだろうか。私

自信と勇気を

赤井川村立赤井川中学校 小 中 憲 雄

は、初任者であったが、1年生の担任となった。2・3年担任は、ベテランの教員である。初任者ながら生徒の姿に危機感を抱いていた私は、積極的に問題提起をしたが、空振りばかりであった。

私より1年遅れで、新しい校長が来た。48歳の新米校長だ。積極的に生徒に話しかける。そして荒れている生徒をも納得させてしまう説得力を持っている。先生方への接し方も上手だ。授業や活動場面にちょいと顔を出し、ちょっとした教員の工夫を大げさに褒める。それぞれの持ち味を生かすような褒め方なのである。そうされて悪い気がする人はいない。教職員が活気づいていくのが分かる。誰もが、その校長に脱帽だった。生徒の乱れもだんだん収まっていった。居場所のある学級づくりなどと言われるが、職員室も同じである。それぞれが存在を認められてこそ、意欲的に教育活動に励むことができるのだ。たくさんの教育改革が学校に押し寄せている。実りあるものにするには、教職員をいかにその気にするか、校長の腕の見せ所だ。果たして今の自分は、どうなのか。先生方に自信と勇気を与えているのか。自問自答する毎日である。



忘れられぬ一言

小樽市立北陵中学校 宮 澤 知

「やることになっているからやっているだけじゃないのか！」 私が出会った、大きな壁は、当時の教育長のこの言葉だ。

6年間、教育委員会で勤務させていただいた。年齢を重ねると、妻以外から叱られる経験はそうそうないものだが、ラインが重要な行政職においては、責任をもって一つの仕事を完遂する厳しさを上司に教わった。そして、奢っていた根拠無き自負は、わずか1ヶ月もしないうちに体重と共に萎んでしまった。仕事に行き詰まる度、「この仕事をしたくて教師になったわけじゃない。」と自分に言い訳。と、同時に、目の前の業務をこなさきれない日々が続いた。

同じ建物にいる市職員と一緒に仕事をしてその凄さを感じた。行政職では同じ仕事を続けて何年も担当することは珍しい。2年前までは建設部、今は教育委員会、突然の辞令で異動。故に、彼らの業務は、前任者が残す「簿冊」が全てとなる。日頃の業務も文書が全て。文書を起案できること、読み込めることができれば全く仕事にならない。「読んでいない。見ていない」はあり得ない。そして、わずか1週間も経たないうちに、以前からそのポジションに居たかのように圧倒的な存在

感で業務を進める。ある意味「ルーチン」を守ってこそできることかも知れない。

私自身、すっかりルーチンに慣れてしまった頃に前述の教育長の言葉。「学力調査の結果を保護者に知らせようと考えているが、どうだ?」「現場が混乱するので難しいことだと思います。」

「結果を知らせて、保護者や子どもたちが本当に困るのか!」一喝された。即ち、「レバリッジ・ポイント」である。それは、これ以前に「卒入学式のスタンダード」を市教委として示したことと同じである。教育に対する市民の見方が大きく変化するうねりを感じた。

一喝してくださる方が側にいない今、学校を任されている以上、その先にある何かを大きく変えるには、日々何気なく通り過ぎていく小さな物事に心を留め、「これで本当に良いのか」と、立ち止まることが大事であると、痛切に思う。学校は、予測不可能な時代に生きる子どもたちの人生に、責任を持つ場となる。だとするなら、創造的な仕事に邁進できる数少ない「行政」の場であることを決して忘れぬよう情熱をもって仕事をしていきたい。

文 芸

マンガ考

釧路町立遠矢中学校 新 谷 修

二十何年も前の話。全道ミニバスケットボール交歓大会に出場するために、釧路から旭川へ向かうバスの中で、子どもから借りて読んだ高校バスケットを舞台にしたマンガの単行本に大きな衝撃を受けた。バスケットを題材にしたマンガは当時ほとんどなかったが、どれどれ・・・ページをめくっていくと、あれよあれよと引き込まれていき、それ以降、毎週書店に行って週刊〇〇誌を購入する生活がしばらく続くことになったのである。

そのマンガは、高校からバスケットを始めた主人公とそのチームメイトや友達、家族を中心に話は展開していくが、ライバルや対戦相手についても、その生い立ちやレギュラーになるまでの苦難なども描き、登場人物すべてのドラマが展開されるマンガであった。また、バスケット経験者にとって（未経験者でも分かるように解説もあった）心をくすぐられるような専門用語や作戦、フォーメーションなどが次々に出てきたり、ゲーム中の選手や監督の心理状況をも描き、バスケットの魅力を遺憾なく伝えるものであった。自分が親しんできたスポーツで、自分の経験と重なる部分が描かれていたからこそ波長が合ったのだと思う。その中の名場面

を一つ紹介。全国大会出場をかけての大勝負、相手チームの猛攻を受け、絶体絶命の大ピンチの状況で、控えの三年生選手が決勝の3ポイントシュートを見事に決める。陰ながらキャプテンや下級生を支えてきた目立たない選手であったが、バスケットを愛する心、ひたむきなその努力が見事に花開いた場面であった。自分がバスケットを指導しているときに、自身の気持ちを高めたいときによく読み返した場面だった。

たかがマンガ、されどマンガ。マンガは今や日本の代表的な文化として世界で認知されている。マンガは「活字離れ」の元凶のように言われてきたが、そうでもないらしい。小説のよさがあるように、マンガにも独自の魅力があり力をもっている。全国学校図書館協議会と某新聞社の合同調査では、本を読む子ほどマンガもよく読むとの結果が出たそうだ。読書の入り口として、または図書館への呼び水として見直す動きがあるとのこと。マンガという文化の今後の動向を一人のファンとして見ていきたい。ただ、命を軽視したものや残酷な描写があるものが多く存在していることに憂慮を抱いている。

道中事務局日誌

月	日	曜	業	務	時間	場 所	月	日	曜	業	務	時間	場 所
4.	1	日	平成30年度第1回事務局研修会		15:30	ライフオート札幌				第4回小中合同研修会(五役)		10:00	道 小 事 務 所
	3	火	第1回小中合同研修会(五役)		15:00	道 小 事 務 所				北海道中学校体育連盟第1回理事会(会長)		10:00	北海きたえーる
	7	土	第1回運営委員交流会(会長, 事務局長, 会計理事, 運営委員, 専任職員)		10:30	道 中 事 務 所	10	木		北海道教育振興会総会(木谷)		15:30	ライフオート札幌
			第1回副会長研修会(五役, 副会長, 専任職員)		13:30	ライフオート札幌	11	金		社会を明るくする運動北海道推進委員会(越田)		14:00	札幌第三合同庁舎
			第1回理事研修会(五役, 副会長, 幹事, 地区理事, 専任職員)		14:00	ライフオート札幌	14	月		北海道小学校長会総会・研修会(会長)		10:00	ライフオート札幌
							18	金		北海道退職校長会定例総会・懇親会(会長)		13:00	ライフオート札幌
										道特協定期総会・研修会(木谷)		13:00	サンブラザ
13		金	第2回小中合同研修会(五役)		15:00	道 小 事 務 所	21	月		北海道公立学校教頭会総会・研修会(会長)		14:30	札幌サンブラザ
			フリースクールなど民間施設との懇談会(木谷)		13:30	道 庁 別 館				日本教育公務員弘済会北海道支部第1回幹事会(高橋)		15:00	ライフオート札幌
16		月	教職員互助会特別会事業検討委員会(法本)		14:30	日本興亜札幌ビル	22	火		全日本中学校長会常任理事会(橋本) 全日中監査(大山)		13:30	全 日 中 会 館
17		火	北海道教育大学教員養成改革推進外部委員会(和田)		10:00	駅前サテライト							
19		木	第2回事務局研修会(五役, 筆頭副会長, 幹事, 専任職員)		10:30	ばらと北1条ビル	23	水		全日本中学校長会理事会(橋本・高橋・蓮本・木谷)		10:00	オリンピックセンター
20		金	第3回小中合同研修会(五役)		14:50	道 小 事 務 所	24	木		全日本中学校長会総会(五役・副会長・代議員・オブザーバー)		10:00	オリンピックセンター
			北海道・札幌市公立学校教員採用に関する協議会(高橋)		10:00	道 庁 本 庁 舎	25	金		全日本中学校長会総会(五役・副会長・代議員・オブザーバー)		9:30	オリンピックセンター
			第91回総会・研修会(五役, 副会長, 幹事, 地区理事, 運営委員, 代議員, 専任職員)		10:00	ライフオート札幌				皇居特別参観(橋本・吉田・木谷)		14:00	皇 居
			第2回副会長研修会(五役, 副会長, 専任職員)		12:00	ライフオート札幌	31	木		第3回事務局研修会(五役, 筆頭副会長, 幹事, 専任職員)		10:30	ばらと北1条ビル
			第1回専門部研修会(五役, 副会長, 幹事, 地区理事, 運営委員, 専任職員)		15:30	ライフオート札幌	6.	4	月	日本教育公務員弘済会北海道支部第1回運営委員会(高橋)		15:00	ライフオート札幌
28		土	第2回理事研修会(五役, 副会長, 幹事, 地区理事, 専任職員)		10:00	ライフオート札幌	5	火		北海道公立学校教職員互助会第1回理事会(尾崎)		10:30	札幌ジャンプ興亜札幌ビル
			北海道PTA連合会 平成30年度第1回北海道教育委員会との教育懇談会(三浦(崇))		14:00	ポールスター札幌	7	木		第5回小中合同研修会(五役)		10:00	道 小 事 務 所
							8	金		第7期第3回北海道教育推進会議(会長)		10:00	第2水産ビル
							9	土		日本教育会北海道支部総会・講演会(高橋)		13:00	ライフオート札幌
5.	7	月	道教育表敬訪問(五役)		11:00	道 教 委							
	8	火	要望書提出(会長)		9:30	道 教 委							

北海道中学校長会

発行者 会長 橋本 直樹

編集者 道 中 情 報 部

事務局 札幌市中央区北1条西3丁目
敷島プラザビル4F
TEL011-251-1344 FAX011-251-1302
http://www.dochu-kochokai.jp

本誌の発行にあたっては、作成方法等の見直しにより経費の削減に努めています。